

# 北海道浮魚ニュース

令和6(2024)年度5号

2024年6月26日

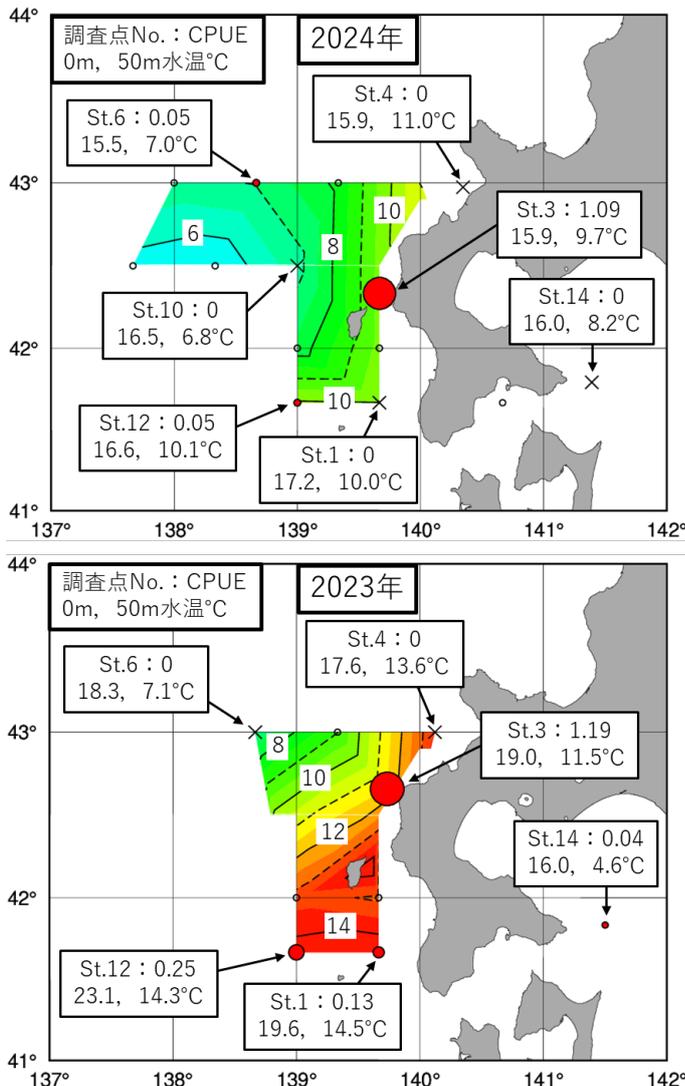
道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 [https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo\\_news.html](https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html)

## ◎スルメイカ漁場一斉調査結果

6月11日～20日の期間、北海道南部日本海および太平洋側の恵山沖で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は非常に低く、平均CPUEは2023年と同程度、2010年以降で最も低い値でした。
- ・スルメイカのサイズは昨年および過去5年平均より小型でした。



### 1. 水温分布(図1)

2024年の日本海側の漁獲調査点6地点の表面水温は15.5～17.2°C(昨年5調査点:17.6～23.1°C)、深度50m層の水温は6.8～11.0°C(昨年:7.1～14.5°C)で、2023年よりも全体的に低くなっていました。

深度50m層では、調査海域の南部から沿岸寄りにかけて高く、沖合ほど低くなっていました。また、深度50mで10°C以上だったのは調査海域の南部や沿岸部のみで、大部分は10°C以下でした。

太平洋側の恵山沖(St.14)では表面水温が16.0°C(昨年:16.0°C)、50m深が8.2°C(昨年:4.6°C)でした。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの水温分布図(上:2024年、下:2023年) 矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。○は海洋観測点

## 2. 流向流速分布（図 2）

本調査の航行中に ADCP 観測により得られた深度 50 m の流向流速と水温分布を照らし合わせると、対馬暖流は松前沖から津軽海峡方向へ向かって流れていました。また、奥尻島の西側を通過して北西方向へ向かう流れも見られました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらをご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou.html>

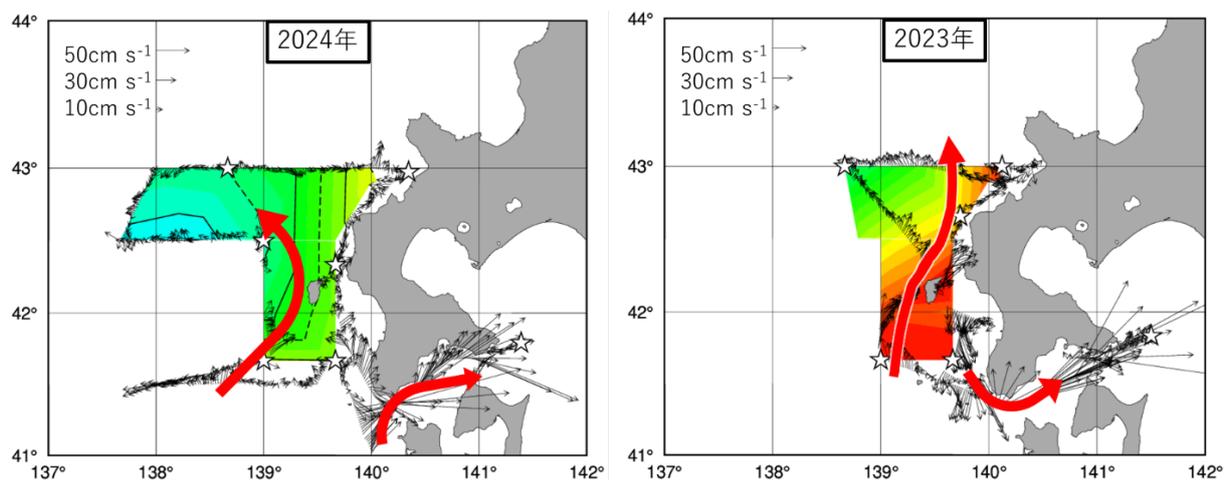


図 2 2024 年（左）と 2023 年（右）の深度 50 m の流向流速と水温分布図  
赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図 ☆は漁獲調査点

## 3. スルメイカの分布密度（図 1、3）

日本海の漁獲調査は計画していた 7 地点のうち、6 地点で実施できました。漁獲調査を行った 6 地点における CPUE（2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）は 0~1.09（昨年：0~1.19）でした。CPUE が最も高かったのは瀬棚沿岸（St. 3）の 1.09 で、それ以外の 5 地点は 0 あるいは 0.05 と低い値でした。漁獲調査 6 地点の平均 CPUE は 0.20 で、2023 年の 5 地点の平均値（0.31）と同程度で、過去 5 年の平均値（1.55）を下回り、2010 年以降で最も低い値となりました。

また太平洋側の恵山沖（St. 14）では漁獲はなく、CPUE は 0（昨年：0.04）でした。

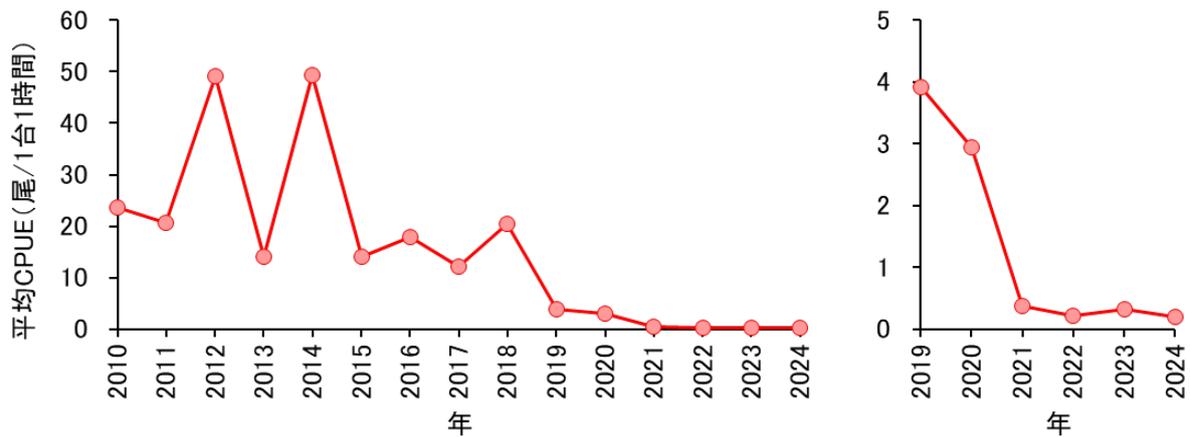


図3 日本海の漁場一斉調査における平均 CPUE の推移、右は 2019 年以降の拡大

#### 4. スルメイカの大きさ (図4)

今回の調査で漁獲された日本海側 6 地点のスルメイカ外套長 (胴長) の範囲は 4~17 cm (昨年: 5~18 cm)、最も出現比率が高かった外套長 (モード) は 14 cm (昨年: 15 cm、過去 5 年平均: 15 cm)、外套長の平均値は 13.8 cm (昨年: 14.2 cm、過去 5 年平均: 15.2 cm) であり、今回の外套長組成は 2023 年および過去 5 年平均よりも小型でした。

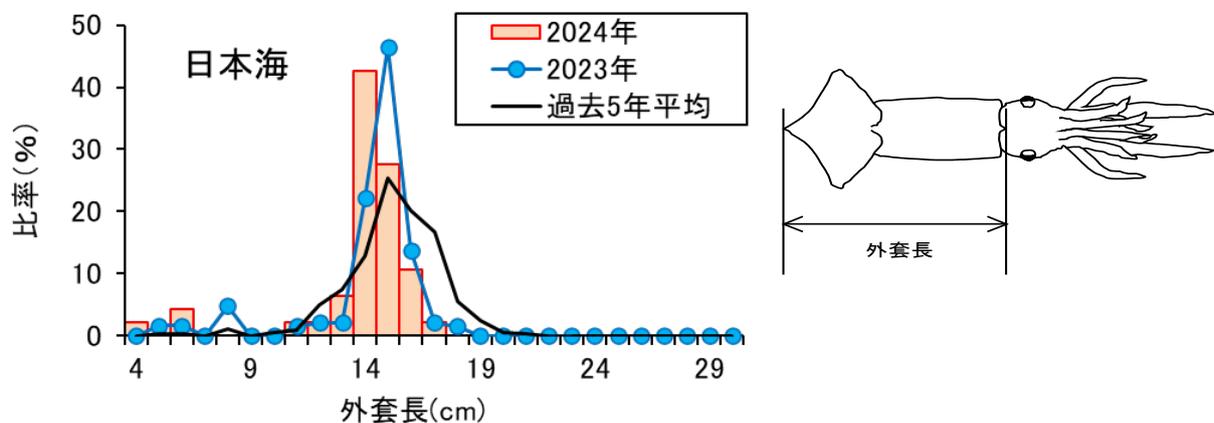


図4 日本海スルメイカの外套長組成

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

(函館水産試験場調査研究部 TEL: 0138-83-2893、FAX: 0138-83-2849)